

2000年12月発行 第26号

「最善の進路とは」

進路指導部 田中 幹雄

高等専修学校をこの春卒業をした、12期生までの自閉児331名の進路の方向性は、次に記す通りです。

- ・企業就労・・・179名(54%)
- ・福祉就労・・・108名(33%)
- ・進学・・・36名(11%)
- ・その他・・・8名(2%)

保護者研修会等でお知らせしています様に、現在進路担当教員は4名います。1名が教科指導との兼務で健常児(進学・就職)2名が同じく教科指導との兼務で自閉児(企業就労二、三年生の学年割り)そして私が専任で自閉児の福祉就労を担当しています。

進路指導が円滑に行われている理由としては、各自の役割分担が明確であることや創立以来培ってきた職場との関係、更には保護者の方より寄せられる情報等が考えられます。現状が最善であるとは言い切れませんが、ある程度の成果が出せていると確信しています。ある程度という曖昧な表現になってしまうのは、予てより清水校長が申しておりますように「我々は、生徒自身にとって最善の職場を探しています。その職場が保護者の方にとって必ずしも最善の職場であるとは言えません。」という言葉が、まだ保護者の方に浸透し切れていないからです。

福祉就労における進路決定の際に若干ではありますが、方向性を決めあくむ保護者の方がおります。そこで福祉就労の3つの方向性を簡単にお伝え致します。

「知的障害者厚生施設(入所・通所)」は、保護すると共に、厚生に必要な指導及び訓練を行う所。

「知的障害者授産施設(入所・通所)」は、雇用されることが困難なものに、自活に必要な訓練を行うと共に職業を与える所。

「知的障害者デイサービスセンター(通所)」は、文化活動、機能訓練を行うことにより、その自立を図ると共に生きがいを高める所。

この様に福祉就労に関してもそれぞれ特徴があります。大切なことは、その生徒自身の性格や能力等を考えて、最も活かせる就業場所を決定するということです。それが将来必ず本人の生きがいにつながるのです。

保護者の方も、最善の意味を再確認してみてください。